

森田村埋蔵文化財シリーズ 第3集

玉井(1)遺跡(試掘調査概報)

～農道造成にかかる事前調査～



TrDg.2b: 田出土。中期末の土器。

Excavation Report on the Jyōmon age Tama-i(1)-a・b・c Site

1994・10・30

青森県西津軽郡森田村教育委員会

序 文

平成2年4月26日、森田村「石神遺跡」から発掘された縄文式土器等219点が、国の重要文化財に指定を受けた。

石神遺跡は、明治31年頃「床舞遺跡」として既に学会誌に出土品が紹介されるなど、その存在は広く知られていた。

石神遺跡の出土品を収めた、当村の歴史民俗資料館は、円筒土器の発祥から終わりまで、すべて見ることのできる資料館として有名である。

森田村は、岩木山麓丘陵部と平野部となっており、丘陵部台地の土壤は洪積層の風化火山灰層や粘土層であり、この台地一帯には縄文時代の遺跡30数箇所があり、これからの調査によって増える可能性もある。

埋蔵文化財の保護と各種開発事業の調整をはかる上で、遺跡の性格、所在地、範囲等を正確に示す遺跡台帳並びに地図を整備する必要があることは言うまでもありません。

当教育委員会は、関係課とも連携をとり村の産業、経済の発展、地域住民の生活安定のために遺跡の詳細分布調査をするものである。

最後にあたり、調査に際し、ご指導、ご協力を賜りました関係各位の皆様に対し、こころから感謝申し上げる次第です。

平成6年9月10日

森田村教育委員会

教育長 工 藤 啓 助

例　　言

- 1) この報告書は、森田村教育委員会（同建設課）が発掘調査した村道造成にかかる事前調査（試掘調査）の記録である。
- 2) 玉井（1）遺跡は、遺跡台帳にも記載された周知の遺跡であるが、玉井（1）遺跡a地点・b地点及び、c地点は、本調査において新しく発見された遺跡である。
- 3) 各トレンチのセクション図、平面図は、調査員が手分けをして作成したが、原図は、総て20分の一で作成した。各図面には念のためスケールを入れてある。
- 4) 報告書の執筆、及び、写真の撮影等一切は、新谷雄蔵が担当した。
- 5) 出土した遺物の一切は、森田村歴史民族資料館に展示して、村民の歴史研究の資料にする。
- 6) 末尾ながら、青森県教育委員会文化課の助言を戴いた。ここに記して感謝の意を表する次第である。

目 次

表紙

序文

例言

目次

【1】発掘要項	4
第1図 遺跡付近地形図(2万5000分の一図-付き村道路線図)	5
【2】調査の経過	6
a) 調査の経過(発掘日誌から、トレントの設定を含む)	6
第2図 トレント配置図(1000分の一図)	11
第3図 トレント配置明細図(100分の一図)	13
【3】検出した遺構	
a) 住居跡	14
b) 土壙	14
c) 溝状遺構	14
d) 柱穴	14
第4図 Tr 1 北壁セクション図・Tr 3-b 北壁セクション図	15
第5図 Tr 2-a 東壁セクション図・Tr 3-a 北壁セクション図・Tr 3-a 溝状遺構平面図	16
第6図 Tr × 1 南壁セクション図・Tr × 1 柱穴平面図	17
第7図 Tr × 3 東壁セクション図・Tr × 2 遺構平面図	18
第8図 Tr 4 北壁セクション図・Tp 1 ~ Tp 3 セクション図(南壁・北壁・南壁) Tr 5 北壁セクション図	19
第9図 Tr 7 北壁セクション図・Tr 8 北壁セクション図	20
第10図 Tr 9 東壁セクション図・Tr 10 東壁セクション図	21
【4】出土遺物	
a) 円筒土器系	22
b) 中期末の土器	22
c) 後期の土器(※印参照)	22
d) 石器	22
e) 円盤状土製品	22
f) 骨類	23
g) 須恵器(参考資料) (拓影図 1 ~ 15)	23
【5】小結(総括)	39
a) 円筒土器系	39
b) 中期末の土器	39
c) 石器	39
d) その他の出土遺物	39
*参考文献	40
【6】写真図版(Plates) 1 ~ 14	41

【1】発掘要項

a) 発掘主体者	・森田村教育委員会 代表 教育長 教育次長 学務係長 (主担) 社教係長 社教主事 社教主事補	工藤 啓助 鶴賀 威 瓜田 又一 山谷 敬二 新谷 寛 原田 恒行
	・森田村建設課 (主担) 課長補佐 土地改良係長 主事 主事	原田 豊彦 川村 邦雄 佐藤 幸徳 山崎 和人 原田 義光
b) 調査担当者	・日本考古学協会会員 調査員 ・北奥文化研究会副会長 ・元車力中学校長 ・北奥文化研究会事務局長	新谷 雄藏 永澤 秀夫 清野 真人 小山 英治
副調査員	・北奥文化研究会会員	桜庭 健司
c) 遺跡の所在地	・青森県西津軽郡森田村大字玉井62~78	
d) 発掘法	・トレンチ法による。	
e) 発掘面積	137平方m	
※報告書の作成	☆森田村教育委員会・並びに、森田村建設課の委嘱によ って、新谷雄藏が担当する。	

森田村管内図

第1図



[遺跡付近地形図]

【2】調査の経過について

調査の経過（発掘日誌から）

◎9月1日（木）天気 晴（一時雨あり） 発掘第1日目

1) 森田村役場前に全員集合、簡単な打ち合わせの後、現地に移動する。

2) 玉井（1）—1c遺跡より発掘作業を行うこととする。

※玉井（1）遺跡は、1a・1b・1cの3地点に分けられる遺跡である。即ち、「玉井（1）遺跡」の、1a地点は、古代の製鉄遺跡と縄文時代の中期・後期の遺跡が複合する遺跡で、玉井（1）遺跡の1c地点は、縄文時代の中期・後期の遺跡であるから、両者は、遺跡の性格が異なるようである。（但し、表面観察による）

3) 発掘第一日目は、「玉井（1）遺跡の1c地点」から発掘作業を実施した。

即ち、下記のようにトレンチを配置した。その際は、農道予定地点の北寄りに設定し、スプレーヤーの便宜を考慮して設定した。

玉井（1）遺跡1c地点

東より西へ—○Tr1—東西5m×南北2m。○Tr2—東西10m×南北2m。○Tr3—東西5m×南北2mとし、各トレンチの間隔は、それぞれ5mとした。また、地主さんのご厚意により南北5m×東西5mのグリッドを設定し、中央に東西1m×南北5mのベルトを取った。その結果、東側のトレンチをTr×2トレンチとし、西側のトレンチをTr×3トレンチと呼称することにした。さらに、Tr2トレンチとTr3トレンチの間をつなぎTr×1トレンチと呼ぶことにした。（南北2m×北側5.85m、南側4.84mである）

この玉井（1）遺跡1c地点は、既に述べたように縄文時代中期・後期の遺物が出土する地点であるが、包含層が厚く出土遺物が最も多いのは、Tr2としたトレンチである。Tr1・Tr3トレンチでは遺物の出土がやや少なかったが、これらの各トレンチでは、Ⅱ層の中位において遺物が多く出土した。地盤は、リンゴ園であるが、発掘所見では、リンゴ園造成の際包含層が移動しているものと観察された。

◎9月2日(金) 天気 晴

発掘第2日目

1) 発掘第2日目である。本日の作業は、「玉井(1)-1a地点」の発掘調査である。なお、Tr 1~Tr 3の「玉井(1)遺跡-1c地点」にはセクション図を作成の為、1チームを残した。

「玉井(1)遺跡1a地点」

Tr 4-東西5m×南北2m (道路沿いに-リンゴ園の南側) ○Tr 5-東西2m×南北3m、○Tp 1-東西2m×南北2m、○Tp 2-東西2m×南北2m、○Tp 3-東西2m×南北2m

・1) この玉井(1)遺跡-1a地点は、遺跡台帳にも記載されている遺跡であるが、既に述べたように、製鉄遺跡と縄文遺跡の複合遺跡である。Tr 4としたトレーナーを除き、Tr 5トレーナー、及び、Tp 1~Tp 3としたものは、でき得る限り、この玉井(1)遺跡x地点(第1図参照)に近く設定したのであるが、リンゴ園造成の際に削平されたものらしく、約20cmで地山が出土した。その為出土遺物は、皆無であった。この玉井(1)遺跡x地点は、道路予定地よりはずれているものである。

2) また、道路予定地内には、もう1カ所リンゴ園が所在するが、これらのリンゴ園は、いずれも土が移動されているため割愛した。(トレーナー予定4カ所)

◎9月5日(月) 天気 晴

発掘第3日目

旧道上

本日の作業は、次のとおりである。旧道上にトレーナーを設定した。即ち、第2図に示すとおり、○Tr 6-南北1m×東西5m、○Tr 7-南北1m×東西5m、○Tr 8-南北1m×東西5mを設定した。

雑木林中

更に、Tr 8の東側約50mの雑木林の中に、円形のクボ地があったので、この地点に東西2m×南北4mのTr 9と、Tr 10を設定し、一齊に発掘を実施した。(なお、Tr 9とTr 10は、南北に約2mの間隔で設定した-第2図参照)

- ・このTr 9とTr 10からは、縄文時代の中期・後期の土器が出土したが斜面であるため、上面のリンゴ園から土を移動させた際に落込んだものと観察される。

(その理由は、1層中位からの出土で下層からは土器の出土は無いからである)

◎9月6日(火) 天気 晴

発掘第4日目

本日の作業は次のとおりである。

- ・昨日に続き、Tr 6・7・8及び、Tr 9・10の発掘を続行する。(多分午前中で発掘作業を終了する見込みである)
- ・午後は移動し、Tr 1～3にかかりたいと思う所である。(特に、Tr 3-bの荒掘りを実施したいと思う)
- ・Tr 6は、旧道上のため碎石まじりでとてもスコップでは掘れなかつたので割愛した。また、Tr 7及び、Tr 8としたトレンチは、これも盛土があつて極めて堅く締まっていたが、何とか発掘できた。(即ち、ベースまで掘りさげた)これらTr 6～8は、意外に時間がかかり、午前で終了する予定が午後2時頃までかかってベースまで到達した。
- ・玉井(1)遺跡1b地点としたものは、道路予定地を踏査の段階で、クボ地があることを観察したのでTr 9・Tr 10のトレンチを設定したのであるが、発掘した結果、遺物の出土が多く(Tr 9)これらの遺物は、縄文時代中期・後期のものが多く出土した。また、セクション図(第10図)を見るとわかるように、住居跡の可能性があることがわかつた。しかし出土した遺物は、1層の中位以下では出土せず、斜面であるため東側のリンゴ園から土が押し出されたもののように観察した。即ち、玉井(1)遺跡は、(1a)～(1c)の3地点に分かれることが判明した。
- ・午後2時以降になって、天気予報が降水確率約60%と悪いため、玉井(1)遺跡1a地点に設定したところのTr 4、Tr 5、Tp 1～3を埋めもどした。
- ・また、Tr 6～8及び、Tr 9～10もセクション図を作成の後に埋めもどした。
- ・更に、Tr 1～Tr 3に移動し、玉井(1)遺跡1c地点のTr 1の遺構らしきものの確認にあつたが、遺構で無いことがわかつた。また、Tr 3のTr 3-bを発掘したが、ベルト付近と西側壁面下で、それぞれ半個体の十腰内1群土器が出土した。(2m×10mのトレンチでは、東側をa、西側をbトレンチと、

呼ぶことにした—5mごとに)

◎9月7日(水) 天気 晴

発掘第5日目

本日の作業は次のとおりである。

- Tr 3-b の整理を実施する。
- Tr 1 の落ち込みを精査するも、浅く石群の下からベース(地山)が出土したので作業を中止した。
- Tr × 1 を南北2m×東西(北側5.85m、南側4.84m)とし、Tr 2 と Tr 3 を連結した。また、東西5m×南北5mとし、その中央に東西1m、南北5mのベルトを設定した。そのため Tr × 2 と Tr × 3 に分けられる。
- Tr × 1・Tr × 2・Tr × 3 を設定し、直ちに荒掘りにかかる。Tr 3 の北壁からは、ため池に近いためか水が湧出した。
- また、Tr × 2 の南西壁下に1号とした土壙が検出された。また、Tr 3-a の西壁近くで検出された溝状遺構が Tr × 2 の1号土壙につづくことが判明した。
- 更に、Tr × 2 の西壁下では、溝状遺構があることが判明した。また、Tr 3-b の西壁下に Pit(柱穴)が所在することも次第に分かってきた。これらのことから、リング圍の中には、極めて高い確率で住居跡が所在するように推定される。

◎9月8日(木) 天気 晴

発掘第6日目

本日の作業は次のとおりである。

- Tr 1～Tr 3 の a・b、及び Tr × 1～Tr × 3 の精査をする。
- (留意事項) 1) Pit(柱穴)が無いか? 2) 溝状遺構が無いか?
- 3) その他の遺構が無いか? 4) 平面図の必要は無いか?

◎9月9日(金) 天気 晴

発掘第7日目

本日の作業は次のとおりである。

- 埋めもどしを実施する。即ち、Tr 1～3(a・b)、及び、Tr × 1～Tr × 3 の埋めもどしを実施する。
- さらに、発掘箇所を巡視して、埋めもどしの周辺を点検し発掘作業を終了する。

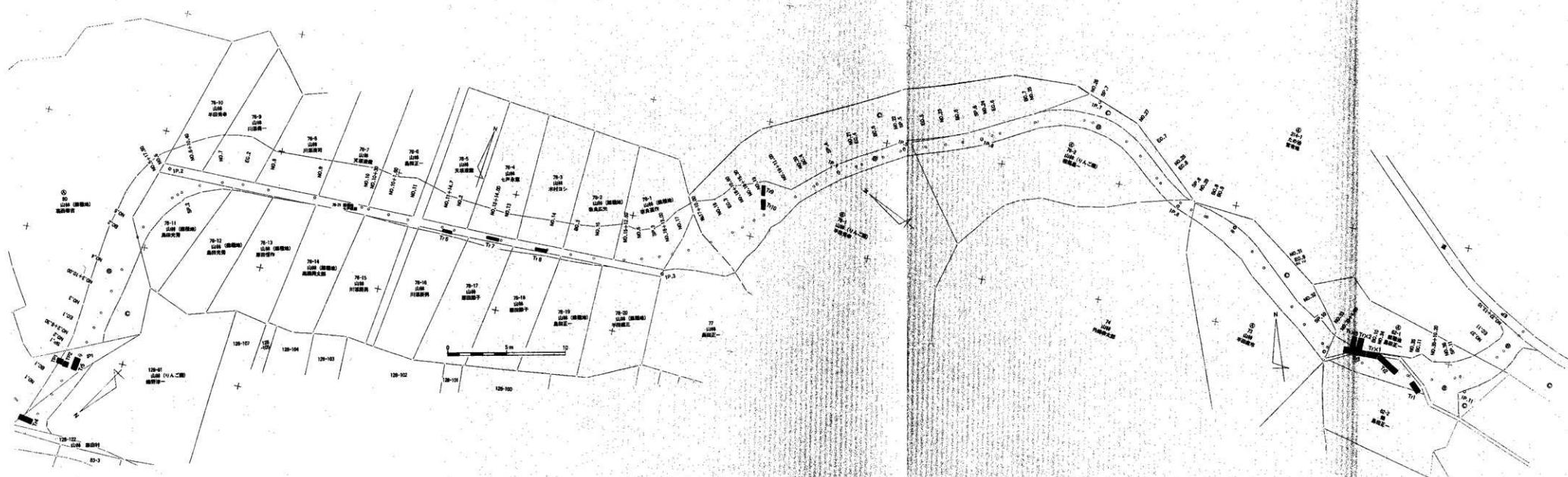
※結び

※玉井(1) 遺跡は、1a・1b・1cの3地点に分けられることが判明した。

森田村の拡大した遺跡の解釈は、賢明であったと思われる。この玉井（1）遺跡の1a・1b・1c地点では、1b地点において、住居跡らしいものを検出した。また、1a地点の近くでは（玉井×地点—第1図参照）製鉄遺跡と縄文時代の複合遺跡であることが判明したのであるが、農道の予定地からやや外れており、玉井（1）遺跡1b地点は、新発見の遺跡である。

これらの各地点は、玉井（1）遺跡として登録されるものであるが、縄文時代の中期（5000年～4000年前と約10世紀—平安時代）の遺跡である。

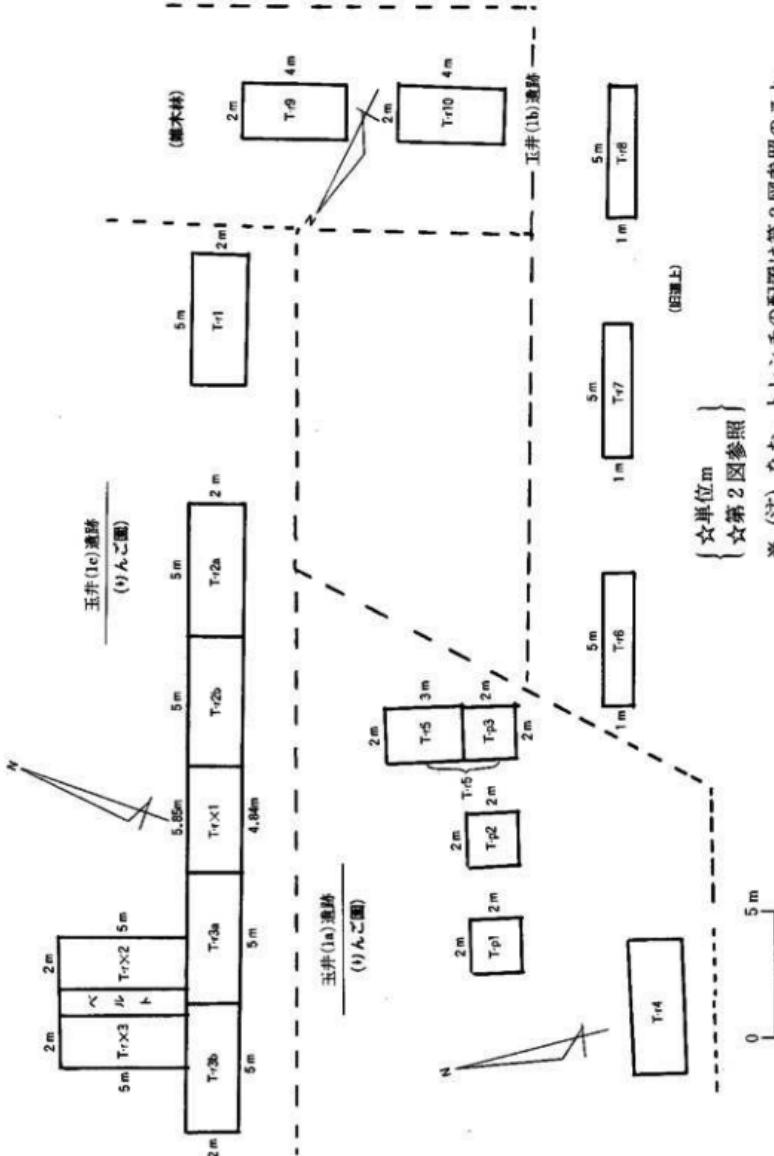
さらに、玉井（1）遺跡1b・1c地点は、縄文時代の中期と後期（5000年～4000～3000年前）の遺物が出土する遺跡であった。また、玉井（1）遺跡1b地点は、住居跡らしいものが検出された遺跡で、出土・土器類は、縄文時代の中期・後期（5000年前～4000～3000年前）の遺物が出土する遺跡であった。



第3図

$$S = \frac{1}{100} \text{ (原図)}$$

トレンチ配置明細図



※ (注) なお、トレンチの配置は第2図参照のこと。

【3】検出した遺構

a) 住居跡 (第10図)

- ・検出した住居跡は、Tr 10トレンチの東壁においてⅥ～Ⅷ層で検出したものである。
- ・このトレンチは、東西4m×南北4mのグリッドとして設定したものであるが、遺物がⅡ層以下では出土しないので、セクション図を作成する目的で、2m×4mに縮少して発掘したのであるが、東壁のセクション図を作成する段階で、住居跡ではないか？の疑いが発掘所見として、でてきたものであるが断定は控えたいと考えている。

b) 土壌 (第7図)

- ・この遺構は、Tr × 2のⅤ層で検出したものである。このトレンチでは、他に溝状遺構も検出されているが後述する。この遺構の平面プランは、円形で深さは29～33cmあった。

c) 溝状遺構 (第5図・第7図)

- ・この遺構は、Tr 3-aの北側で検出されたものである。即ち、ベース(地山)であるⅤ層～Ⅵ層で検出されたもので、南壁下にはPit(柱穴)があった。このPitは、深さが19cmであった。溝そのものは、6～10cmと浅くやや不整なものであった。
- ・また、既に触れたが、Tr × 2においても溝状遺構が発見されている。このTr × 2とTr 3-aとは、第2図を見ると理解されるように、となりあっているトレンチである。

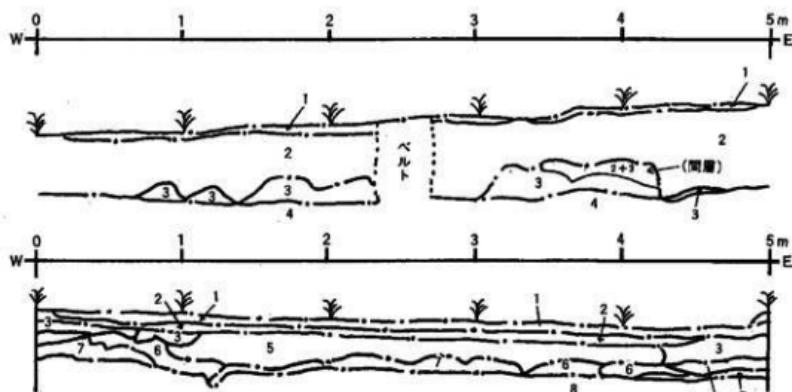
これらの溝状遺構は、Ⅴ層～Ⅵ層で検出された。

d) 柱穴 (Pit—第6図・第8図・第10図)

- ・第6図に示した柱穴は、Tr × 1のPitの平面図である。このものはⅤ層で検出されたものである。また、第10図は、住居跡に伴う柱穴らしく、Ⅶ層から掘り込まれていた。
- ・第8図に示したものは、Ⅰ層下からⅡ層～Ⅴ層まで掘りこんだもので、発掘所見では現代のものと考えられる。

Tr 1 北壁セクション図

$$S = \frac{1}{20} \text{ (原図)}$$



第4図

B・M-(B C 11) 13.355m

E・L-298.5cm

水平糸=124.0cm

Tr 1 層序注記

- 1) 黒色土(10Yr2/1) - 表土である。粒子細かく草木根を含み粘性・湿性が少ない。
- 2) 黒色土(10Yr7/1) - 組作土で、粒子細かく粘性無し。
- 3) 黒褐色土(10Yr2/2) - 粒子細かく粘性・湿性は無い。

B・M-(E C 10) 13.04m

E・L-135.2cm

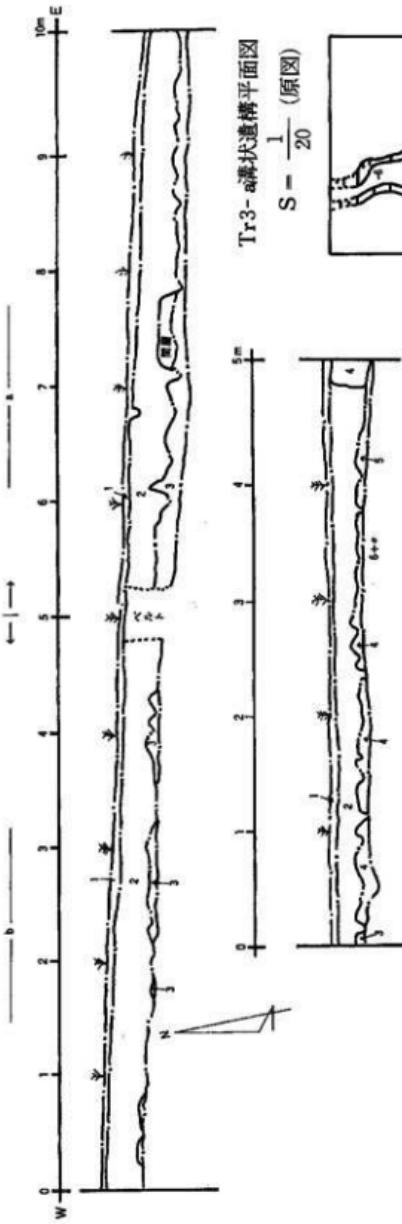
水平糸=100.15cm



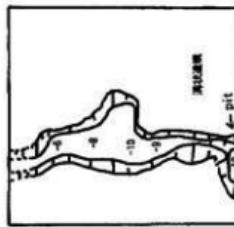
Tr 3-b 注記

- 1) 黒色土(10Yr2/1) - 表土である。粒子細かく粘性・湿性共にあり、草木根多數混入。
- 2) 黑褐色土(10Yr2/2) - 粒子細かく粘性若干あるものの、サラサラしている。草木根多數混入。
- 3) 黑褐色土(10Yr2/3) - 粒子細かく粘性若干あり、草木根やや混入。
- 4) 黑褐色土(10Yr2/3) - 3層に同じ、草木根混入無し。
- 5) 黑褐色土(10Yr3/1) - 粒子やや粗くサラサラしているが本根多數混入する。
- 6) 黑褐色土(10Yr2/3) - 粒子細かく粘性・湿性共にあり、草木根若干混入する。
- 7) 褐色土(10Yr4/4) - 粒子は、やや粗いがサラサラしている。ローム層の漸移層である。
- 8) 明黄褐色土(10Yr6/8) - ローム層 (Doll) で、粘性・湿性共にある。

第5図 Tr2-a・b東壁セクション図 $S = \frac{1}{20}$ (原図) $B \cdot M = (E C 10) 13.355m$
 $E \cdot L = 298.5cm$ 水平糸 = 173.0cm



Tr3-a溝状邊縁平面図
 $S = -\frac{1}{20}$ (原図)



Tr3-a北壁セクション図 $S = \frac{1}{20}$ (原図) $B \cdot M = (E C 10) 13.041m$
 $E \cdot L = 98.7cm$ 水平糸 = 64.0cm

Tr3-a・b 層子注記
 $S = \frac{1}{20}$ (原図)

1) 黒色土 (0Yv2/1) 粒子細かく草木根を含み、粘性・透水性共に無い。
 2) 黑色土 (0Yv7/1) 粒子細かく粘性・透水性共に無い。
 3) 黒色土 (0Yv2/2) 粒子細かくシルト状で粘性・透水性共に無い。
 4) 黑褐色土 (0Tr3/2) 粒子細かく透水性が大である。(泥地があるたるか?)
 5) 暗褐色土 (0Tr4/3) 粒子細かくセラサラして
 いる。
 6) 暗褐色土 (0Tr4/6) 黑く暗まっており、粘性・透水性共にややある。(ペース)

Tr×1 南壁セクション図

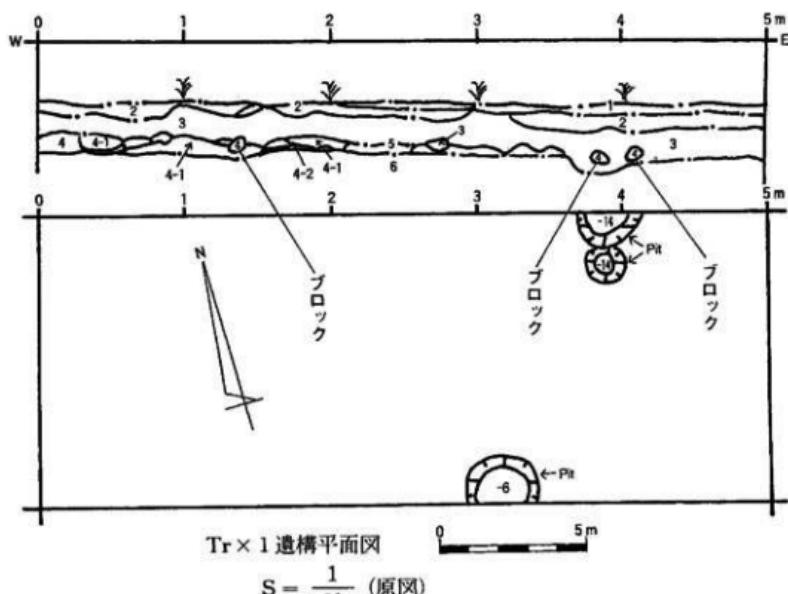
$$S = \frac{1}{20} \text{ (原図)}$$

第6図

B・M-(E C 10) 13,041m

E・L=108.4cm

水平糸=74.0cm



Tr×1 南壁層序注記

- 1) 黒褐色土(10Yr2/2) - 粒子細かくサラサラしている。
粘性・湿性共に少ない。草木根多数見入。
- 2) 黒褐色土(10Yr3/1) - 1層と同じ。
- 3) 黒褐色土(10Yr2/2) - 粒子細やかサラサラしている。太い草木根の混入大である。
- 4-1) 黒褐色土(10Yr3/2) - 粒子細かく粘性ややある。
- 4-2) -暗褐色土(10Yr3/3) - 4-1に同じ。
- 5) 褐色土(10Yr4/4) - 粒子細かくサラサラしている。(6層の漸移層である)
- 6) 黄褐色土(10Yr5/6) - 粒子やや粗く粘性・湿性共にある (ベース)

Tr×3 東壁セクション図

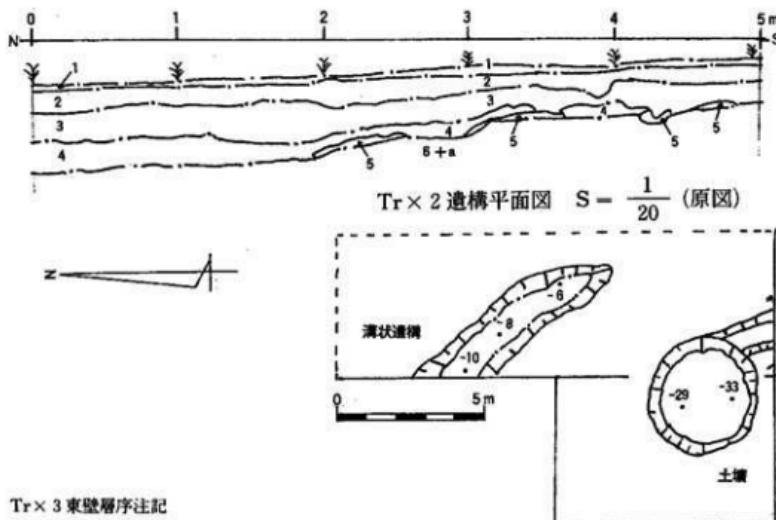
$$S = \frac{1}{20} \text{ (原図)}$$

第7図

B・M-(E C 10) 13.041m

E・L=108.4cm

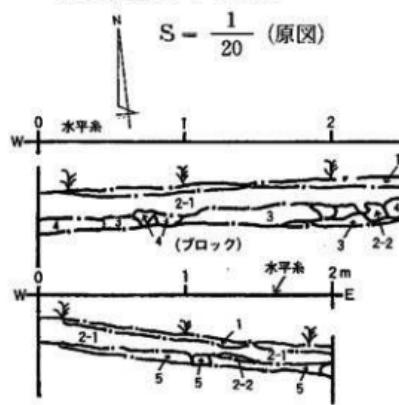
水平糸=130.0cm



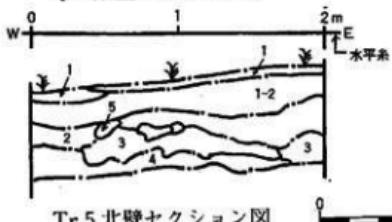
Tr×3 東壁層序注記

- 1) 黒褐色土(10Yr2/3) - 表土である。粒子細かくサラサラしている。草根多数混入している。
- 2) 黒褐色土(10Yr2/2) - 粒子細かくサラサラしている。草木根が多数混入している。
- 3) 黒色土(10Yr2/1) - 粒子細かく、粘性・湿性ともにあり、草木根多数混入する。
- 4) 黒褐色土(10Yr3/2) - 粒子細かく、湿性が大である。付近に沼地があるためか。
- 5) において黄褐色土(10Yr4/3) - 粒子細かく、サラサウしているが、6層とした地山(ベース)の断面層である。
- 6) 黄褐色土(10Yr5/6) - 粘土質ローム層である。粒子細かく、サラサウしているが粘性が中程度ある。

Tr 4 北壁セクション図



Tp 1 南壁セクション図



Tr 5 北壁セクション図



第8図

B・M-(Na2) 21.00m
 E・L=140.0cm
 水平系= 60.0cm

Tp 2 北壁セクション図



Tp 3 南壁セクション図



Tp 3 層序注記

- 1) 盛土である。
- 2) 2-1と同じである。
- 3) Tr4の5と同じ。
- ※Tp1とTp2は、Tr4と層序は同じである。

Tr 4 北壁層序注記

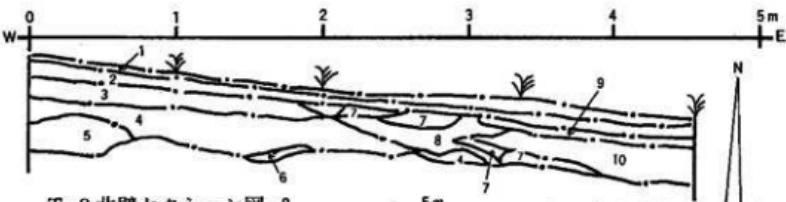
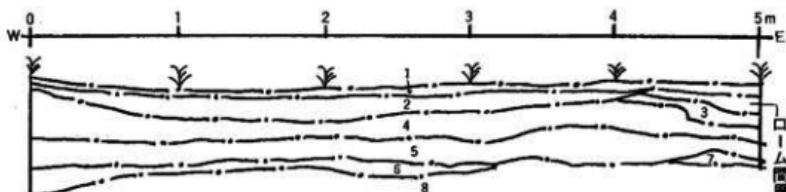
- 1) 明黄褐色土(10Yr6/8)-盛土である。
- 2-1) 喀褐色土(10Yr3/3)-粒子粗くサラサラしている。
- 2-2) 喀褐色土(10Yr3/4)-耕作土で、粒状の耕上ブロックを混入する。
- 3) この層は2+4層の混合層である。
- 4) 褐色土(10Yr4/4)-この層は現段階では粘性はない。この層は5層の複合層である。
- 5) 褐色土(10Yr4/6)-粒子が粗くサラサラしており、粘性・湿性ともに若干ある(ベースである)。
 ※全体として1~4層は、逆転している箇所が見られる。
 ※Tp1-Tp4と同じである。また、Tp2はTp5と同様である。

Tr 5 北壁層序注記

- 1-1) 黒褐色土(10Yr2/3)-粒子細かくサラサラしている。粘性・湿性はない。
- 1-2) 黑褐色土(10Yr2/1)-粒子細かくサラサラしている。草木根の混入は1-1よりは少ない。
- 2) 喀褐色土(10Yr3/3)-粒子細かくサラサラしている。
- 3) 喀褐色土(10Yr3/3)-粒子やや粗いがサラサラしている。
- 4) 黑褐色土(10Yr3/2)-粒子細かく縮まっている。粘性・湿性共に少ない。
- 5) 簡単(10Yr4/4)-粒子細かくサラサラしているが縮まりがある。
- 6) 層以下については未調査である。

Tr 7 北壁セクション図

$$S = \frac{1}{20} \text{ (原図)}$$



Tr 7 北壁層序注記

- 1) 暗褐色土(10Yr3/4) - 粒子やや粗くザラザラしている。草木根多数混入する。
- 2) 褐色土(10Yr4/4) - 盛土である。粒子細かく粘性中程度あるが堅く固まっている。草木根多数混入する。
- 3) 純い橙色土(10Yr4/4) - 黄褐色土が交互に堆積している。所によつては混合している層である。
- 4) 淡褐色土(10Yr3/2) - 粒子細かくサラサラしている。粘性中程度あり。草木根混入。
- 5) 黑褐色土(10Yr2/3) - 粒子細かく粘性若干あり、草木根混入する。
- 6) に近い黄褐色土(10Yr4/3) - ローム層の漸移層である。粘性・湿性共に若干ある。
- 7) に近い黄褐色土(10Yr4/3) - 6層とロームの混合層で粘性・湿性共にある。
- 8) 黄褐色土(10Yr5/2) - ローム層である。粘性・湿性共にある。

第9図

B・M = (Na13) 22.087m

E・L = 144.9cm

水平糸 = 112.0cm

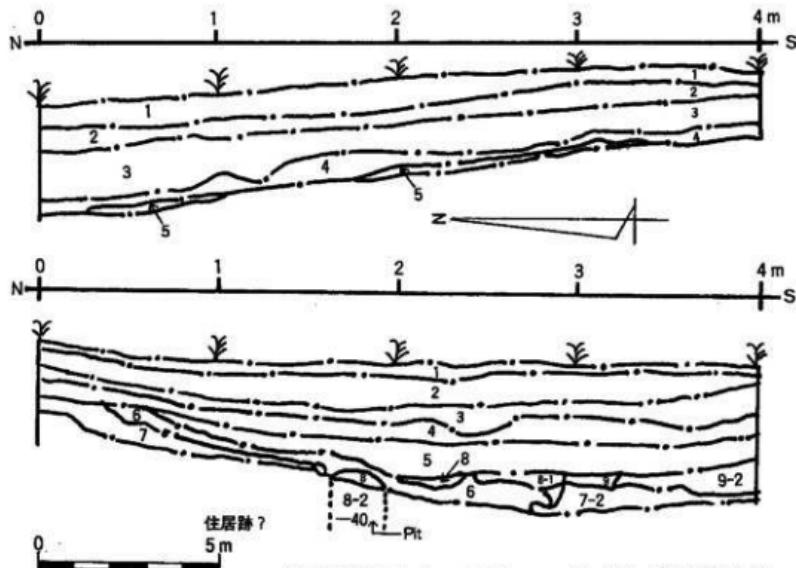
Tr 8 北壁層序注記

- 1) 黒褐色土(10Yr2/2) - 旧道として使用したもので、東側に行くにしたがって砂利が見られる。
- 2) 褐色土(10Yr4/5) - 旧道として使用されたもので盛土である。粘性・湿性共にある。
- 3) 黑褐色土(10Yr2/1) - サラサラしており粘性・湿性は無い。
- 4) 淡褐色土(10Yr2/2) - 粒子細かくサラサラしており粘性・湿性は無い。
- 5) 黑褐色土(10Yr3/1) - 粒子やや粗かくサラサラしており粘性・湿性は無い。
- 6) 淡黄褐色土(10Yr5/2) - ベース直上の漸移層であるが粘性・湿性共にある。
- 7) ~ 9 - 10) - 旧道の盛土である。

旧道上(Tr 6 は、堅くて放棄する)

Tr 9 東壁セクション図

$$S = \frac{1}{20} \text{ (原図)}$$



Tr 9 東壁層序注記

- 1) 暗褐色土(10Yr3/3) - 表土である。草木根多数混入、粘性・湿性共に無く、サラサラしている。
- 2) 増粘土色土(10Yr3/3) - 粒子細かく粘性・湿性ともにあり、サラサラしている。
- 3) 増粘土色土(10Yr3/2) - 粒子細かく粘性・湿性が無く、サラサラしている。
- 4) 黄褐色土(10Yr4/2) - 粒子稍粗いが、堅く結まっている。粘性ややあり、ローム層への漸移層である。
- 5) に bei 黄褐色土(10Yr5/2) - 粒子やや粗く、粘性・湿性ともにある (ベース)

第10図 B・M-(Na18) 15.30m

E・L=19.8cm

水平糸=50.0cm

Tr10東壁セクション図

$$S = \frac{1}{20} \text{ (原図)}$$

B・M-(Na18) 15.30m

E・L=19.8cm

水平糸=25.3cm

Tr10東壁層序注記

- 1) 暗褐色土(10Yr3/3) - 表土である。草木根多数混入する。
- 2) 増粘土色土(10Yr2/2) - 粒子細かく粘性・湿性がある。草木根多数混入するも、サラサラしている。
- 3) 増粘土色土(10Yr2/2) - 粒子細かく、粘性・湿性あるも、サラサラしている。草木根多数混入する。
- 4) 黄褐色土(10Yr1/7) - サラサラしているが粘性・湿性ともにあり、草木根や泥入りする。
- 5) 黒色土(10Yr2/1) - サラサラしているが粘性・湿性共にあり、草木根や泥入りする。
- 6) 黄褐色土(10Yr4/2) - 粒子細かく、粘性・湿性ともに大で締まりがある。
- 7-1) に bei 黄褐色土(10Yr6/4) - 粒子細かく、粘性・湿性共に大で粘土質ロームである。
- 7-2) 明黄褐色土(10Yr6/4) - この層は、ベース+赤褐色土が混入したものである。
- 8-1) 黑褐色土(10Yr2/2) - 粒子細かく粘性・湿性共に大である。
- 8-2) 暗褐色土(10Yr4/1) - 粒子細かく粘性・湿性共に大である。
- 9) 9-1.9-2) - この層は、8と7の混合層である。 (なお、一部に黒褐色土が混入する。)

【4】出土遺物 (PL 5~14参照)

・出土した遺物は、円筒土器系と大木系土器との2系統に分けられる。即ち、大木系土器とは、東北地方の南部で発達した土器群で、この土器群が北上して青森県に到達したものである。これらの土器群は、堅緻に造られたもので、土器を焼く技術（焼成）に優れたもので、胎土（土器を焼く土）も精選されたものであったように観察される。

・また、円筒土器系の土器は、石神遺跡で代表されるように、北海道の南部から東北地方の北部に分布する土器群で、言わば土着の土器である。この土器群は、技術の優れた大木系の土器群を模倣することによって、その優れた技術を取り入れた結果、中期末の段階で一般化されたようと考えられる。

a) 円筒土器系 (○印参照)

・出土した土器のうち、円筒土器系では、縄文時代の中期（約5000~4000年前）の土器群が主体であった。（PL1、PL5、PL6、PL8、PL9、PL12、PL14—○印）

b) 中期末の土器 (×印参照)

・中期末の土器群は、縄文時代の中期末のもので、岩木川の西側では多く出土する傾向があると筆者は、考えているのであるが、石神遺跡でも移入土器を含めて少ないが出土している。（PL5、PL6、PL7、PL8、PL9、PL10 PL11、PL 12—×印）

c) 後期の土器 (*印参照)

・出土した後期の土器は、縄文時代後期初頭のもので十腰内Ⅰ群・Ⅱ群の土器が出土した。（PL5、PL6、PL7、PL8、PL9、PL10、PL11、PL12—*印）

d) 石器 (PL13)

・出土した石器は、タタキ石（3・5）、削器（4）、石斧（6・7）、その他として、黒曜石が2個出土した。

e) 円盤状土製品 (PL 6・PL8参照)

・円盤状土製品は、2個の出土である。このものは、土器片を利用するものが普通

で、中には中央に穿孔があるものも出土することがある。

f) 骨類 (PL12上段)

・出土した骨類は、7点出土したが、Tr 8トレーナーの表土下で検出したものであるが、多分鳥類のもので、同一個体のものと思われるが、部位や種別等は不明である。

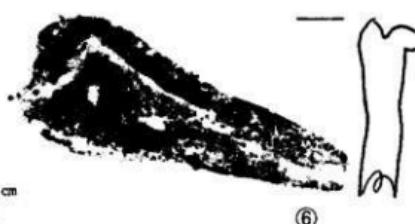
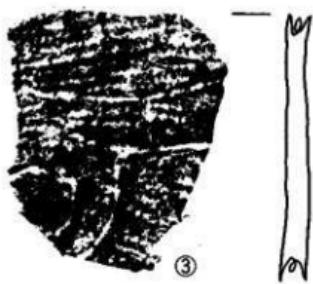
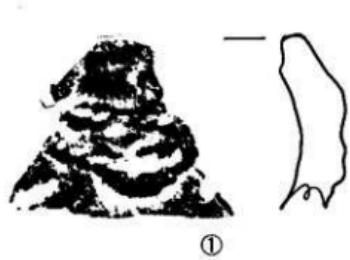
g) 須恵器 (第1図×印参照—PL14参考資料)

・予定された農道からは、外れているが、第1図に示した×地点から、須恵器・円筒系土器・鉄滓が出土している。この須恵器は、約10世紀頃のもので、変形のものである。この×地点は、古代（平安時代）のもので、表採では、多量の鉄滓が出土した。参考品とした円筒系の土器（縄文時代の前期・中期のa式土器）も出土している。

また、土地の人々のお話しの中には、土師器の出土もあるようであるが確認していない。

[拓影図]-1

(拓影図1~15)

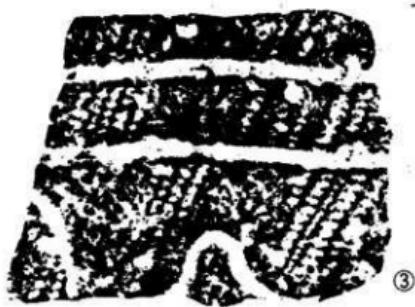
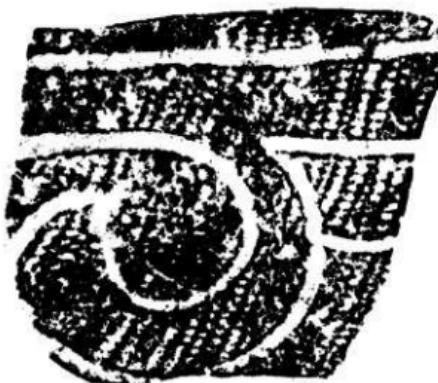


①~⑥ Tr1 II層出土

①~⑥→中期末の土器、⑤⑥十腰内Ⅰ群土器

(註) (中期末の土器・後期の土器に拓影は限定した。)

[拓影図]-2



①～③Tr2-a II層出土

①～③→中期末の土器

[拓影図] -3



①



②

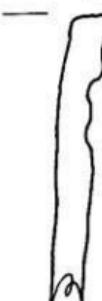
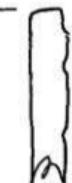


③



Tr2a II層出土

①～③→中期末の土器



[拓影図]-4



Tr2a II層出土

①～③⑤⑥→中期末の土器・④十腰内Ⅰ群土器

[拓影図]-5



①



②



③



④



⑤



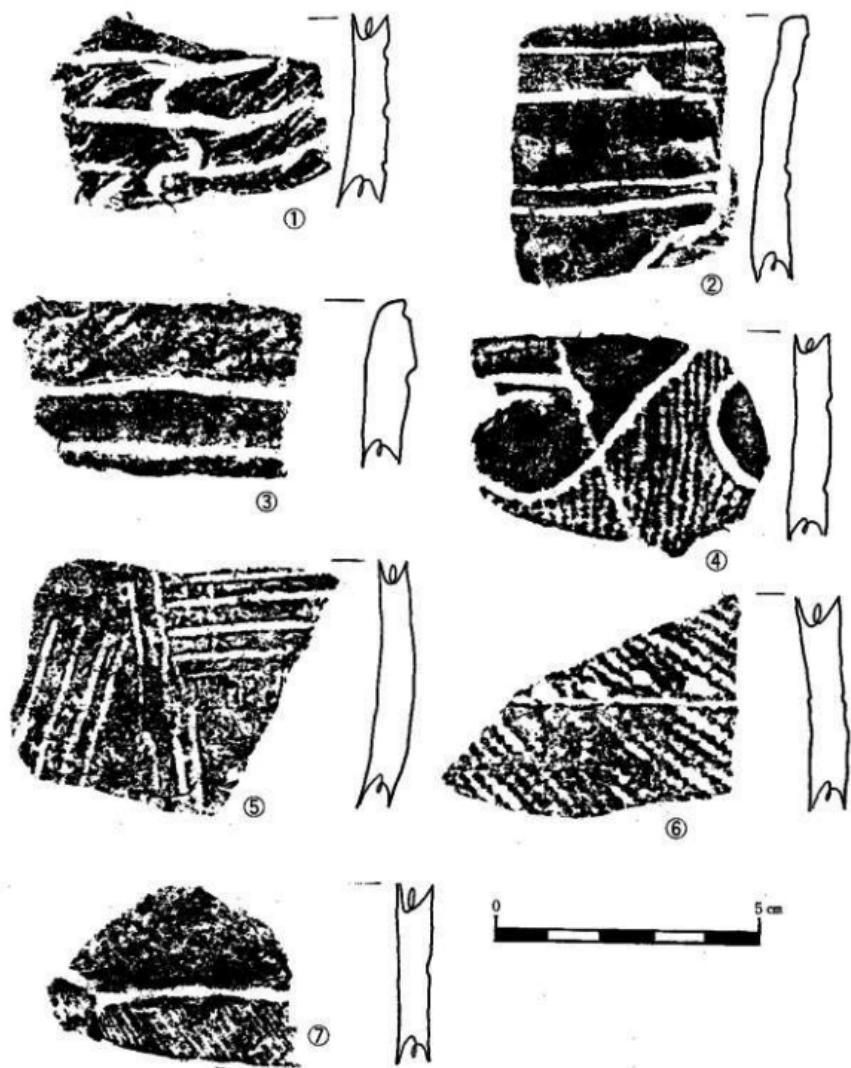
⑥



Tr2a II層出土

①③④→中期末の土器、②⑤⑥→十腰内I群土器

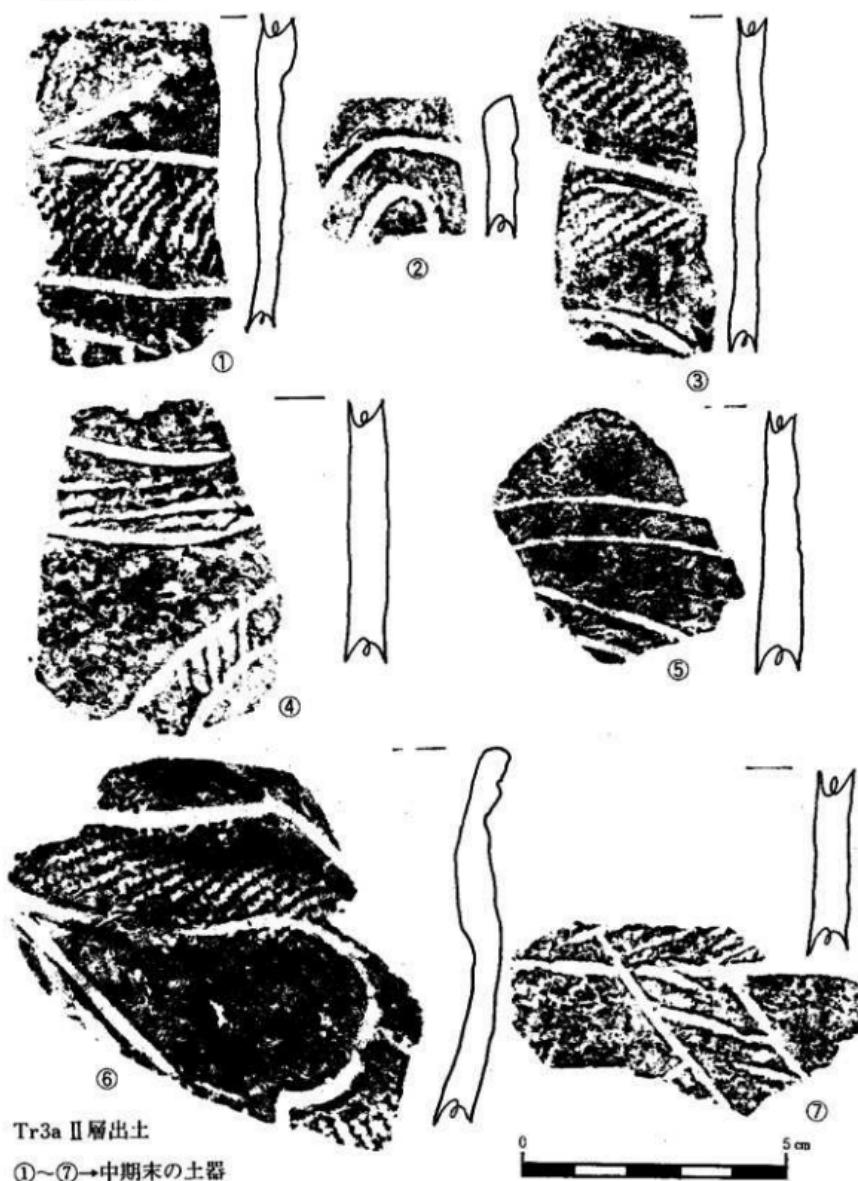
[拓影図] -6



Tr2-b II層出土

①→十腰内Ⅱ群、②～⑦→中期末の土器

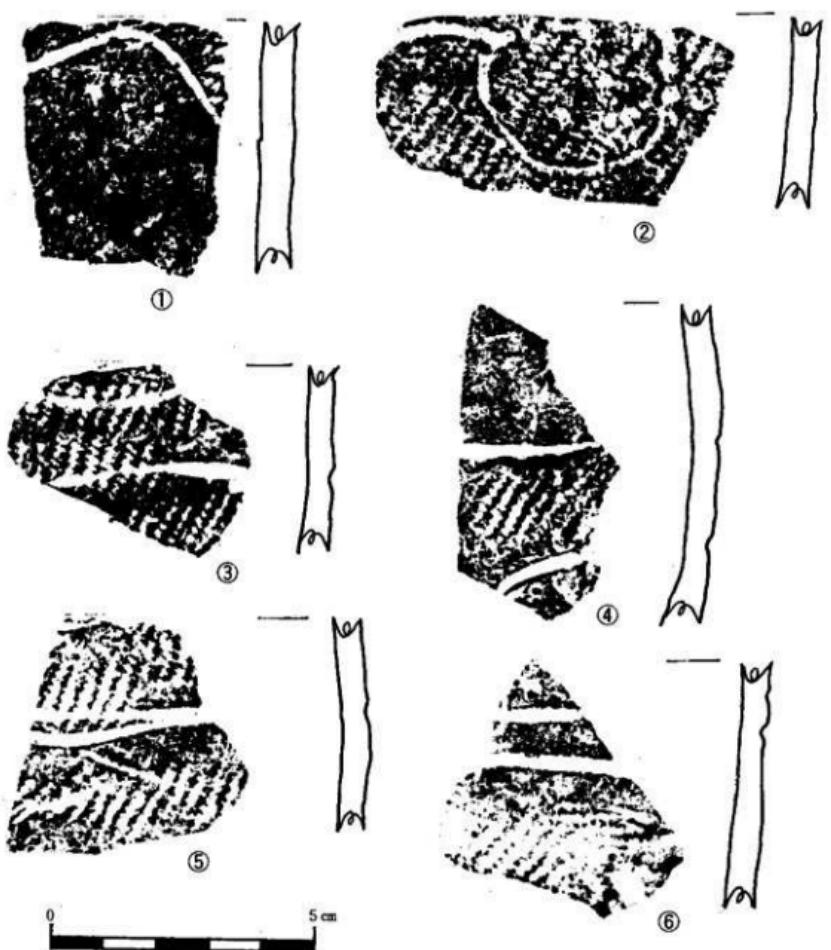
[拓影図]-7



Tr3a II層出土

①~⑦→中期末の土器

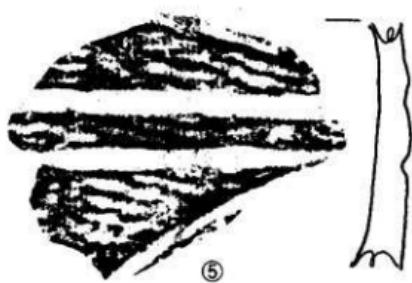
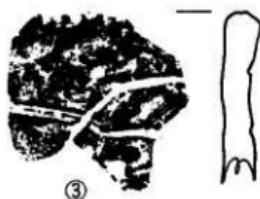
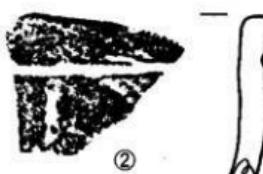
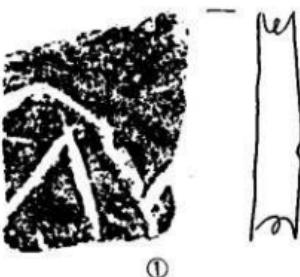
[拓影図] -8



Tr3b V層出土

①～⑥→中期末の土器

[拓影図]-9



0 5 cm

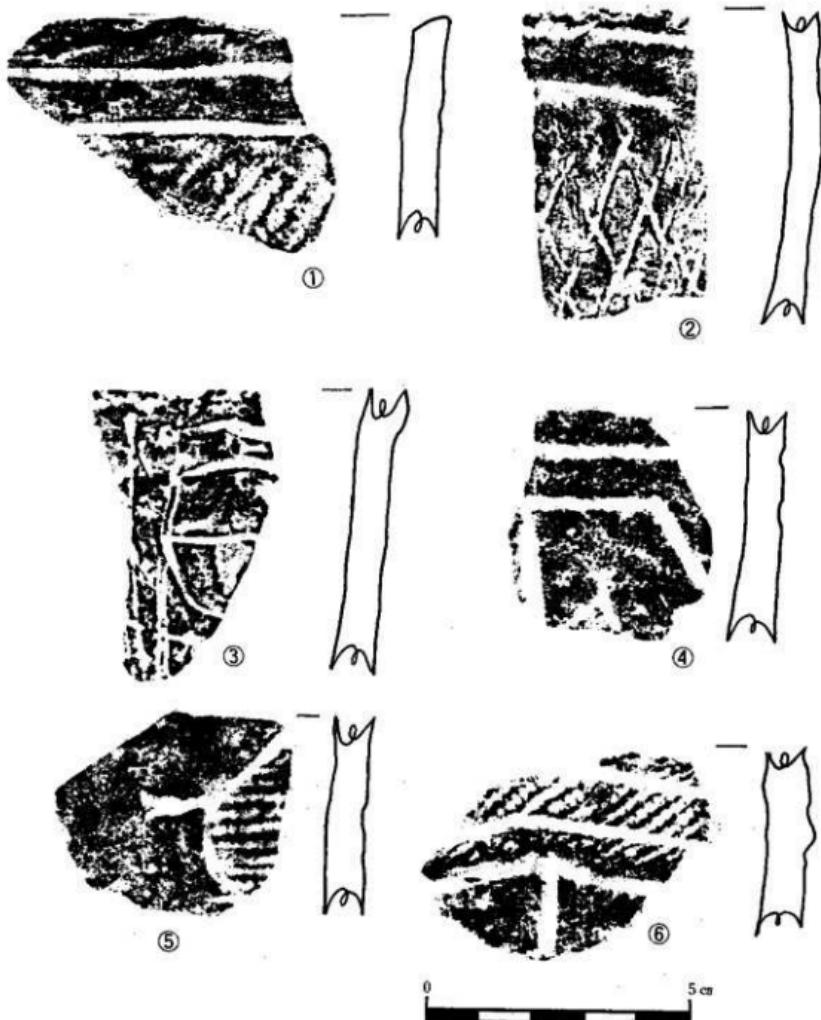


Tr×1Ⅲ層出土

①～⑥→中期末の土器

⑥

[拓影図]-10



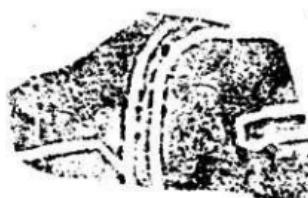
Tr×2 II層出土

①③④⑤⑥→中期末の土器、②→十腰内I群土器

[拓影図]-11



①



②



③



④



⑤



⑥

①～⑥Tr×3Ⅲ層出土

①～⑥→中期末の土器

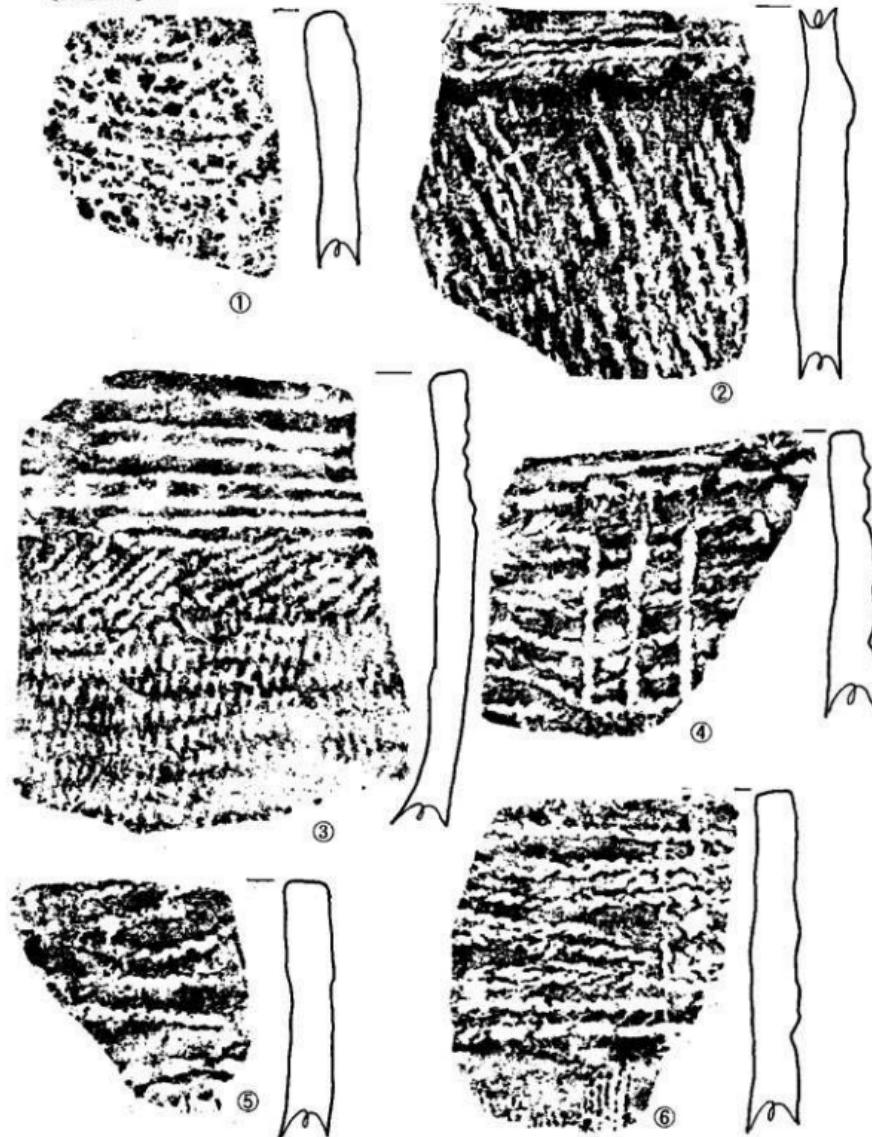
[拓影図]-12



①～⑥Tr9 I層出土

①～⑥→中期末の土器

[拓影図]-13



0 5 cm

[参考資料]

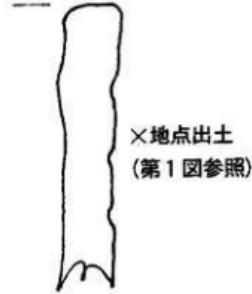
[拓影図] -15



[X地点出土] — (須恵器)

[参考資料2]

[拓影図]-14



①、②参考資料、③Tr×3 II層出土

③→中期末の土器

【5】小結（総括）

a) 円筒土器系 (PL -○印)

- ・円筒土器系の土器群は、縄文時代前期のものは、土器形式で円筒下層a式・b式・c式・d1式・d2式等に分類されることは、既に先学の研究者によって確立されているところである。（約6000～5000年前）
- ・また、縄文時代中期の土器群は、同じく先学の研究者によって確立されているのであるが、土器の形式で示すと、前期と同じく円筒上層a式・b式・c式・d1式・d2式・e式等に分類されている。（5000～4000年前—いざれも古い順に）
- ・今回の発掘調査で出土した土器類は、参考資料を含めて、縄文時代中期の土器群のうち、a式・c式・d2式の土器群が出土した。

b) 中期末の土器 (PL-×印)

- ・これらの土器群は、縄文時代の中期末のもので先に述べたとおり東北地方の南部で栄えた土器群が北上して青森県に到達し、化成してきたもので縄文時代の後期直前の土器群である。まだ、研究者の間では、形式名が付けられていないものである。即ち、これらの土器群は、「牛潟（1）遺跡」一車力村においても出土があるって先学の分類では、処理し切れない土器群である。

c) 石器 (PL 13)

- ・PL 13に示したように石斧2点・タタキ石2点・削器1点・黒曜石2個が出土した。（なお、黒曜石は、同一個体また、石斧のうち1点は表面採集）
- ・これらの石器は、どこの遺跡でも出土するもので、本遺跡の特徴とは言えないものである。

d) その他の出土遺物

- ・出土したもののうち、円盤状土製品は2点の出土である。このものは、多くは土器の片を活用するのが普通である。また、参考資料とした須恵器は、變形のもので多分大甕であろう。なお、このものは古代（平安時代）のもので、約10世紀頃のものと思われる。さらに、骨類は、先に述べたように種別は不明である。

1994.09.09（文責新谷）

※参考文献

- 1) 1974 円筒土器文化 村越 潔著 雄山閣
- 2) 1990 「牛潟（1）遺跡」 車力村教育委員会
- 3) 1992 「牛潟（1）遺跡」（第2次） 車力村教育委員会
- 4) 1970 石神遺跡 江坂輝弥編 石神遺跡研究会

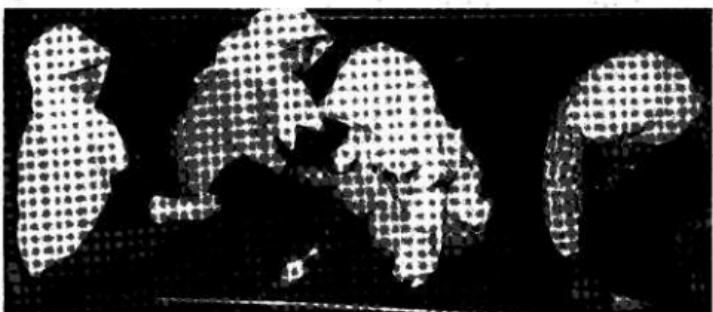
[6] 写真図版-1~14

P.L1

①発掘隊のメンバー（記念写真）



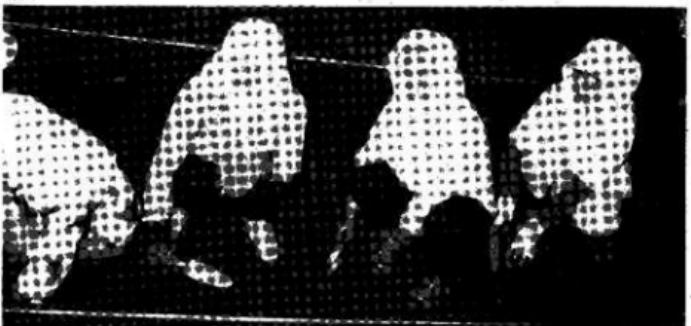
②



(Tr 9 で)

(西方より)

③



(Tr 10 で)

(西方より)

①発掘隊のメンバー②③、雑木林の中の発掘 (Tr9・10)

①



(Tr 8 で)

(東方より)

②



(Tr 9 で)

(南方より)

③



(Tr 10 で)

① 旧道上の発掘 (Tr 7・8)、②③Tr 9・10の計測

(南方より)

① Tr 3 a の発掘状況



(北方より)

② 同上



(西方より)

③ Tr X 2 の実測



① Tr 3 a の発掘、② Tr 3 a の発掘、③ Tr X 2 の発掘

(西方より)

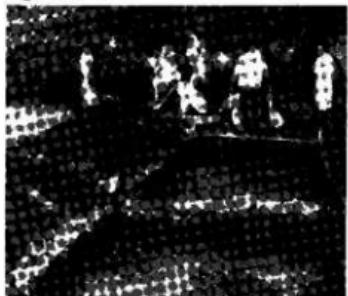
① Tr 3 b の実測



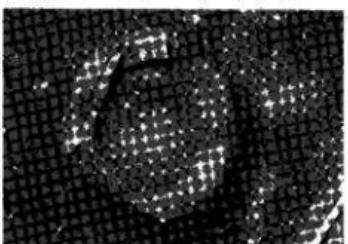
③ Tr × 1 (地主さん) (南方より)



④ Tr × 1



⑥ 遺物の出土状況 (Tr 3 b) (東方より)

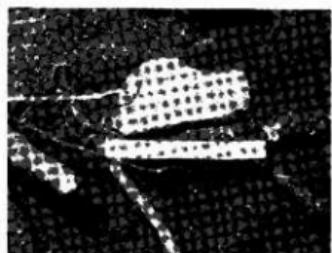


② Tr × 1 のようす

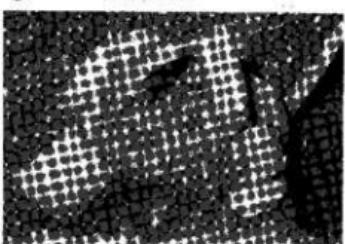


(東方より)

⑤ 遺物の出土状況 (Tr × 2)

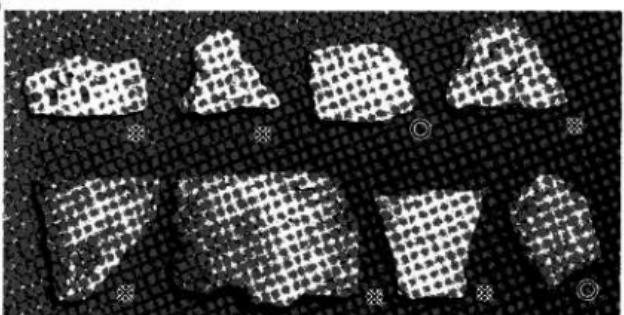


⑦ Tr 3 a の出土状況



{ ① Tr 3 b の計測 ②④ Tr × 1 • Tr 3 a のようす }
 { ⑤⑥⑦—Tr × 2 II 層、Tr 3 b II 層の出土遺物 }

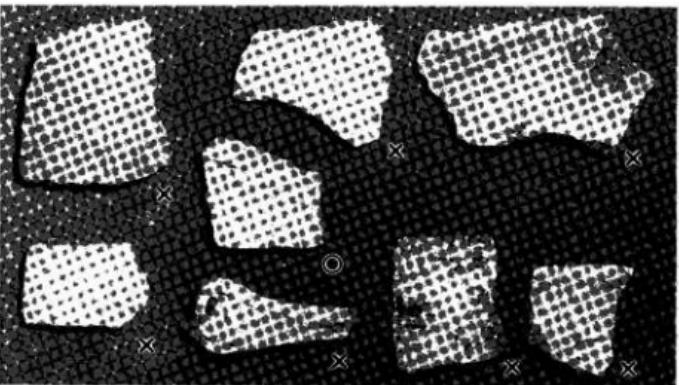
①



②

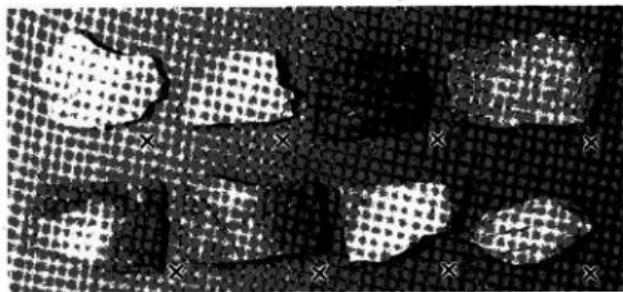


③

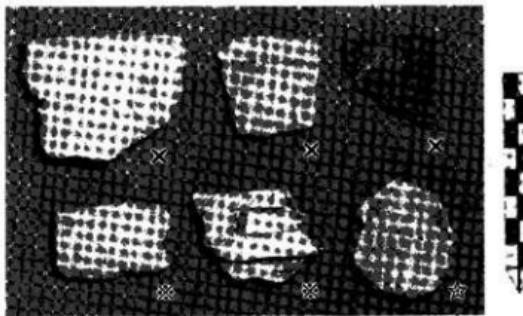


①②③—Tr 1、II層の出土遺物

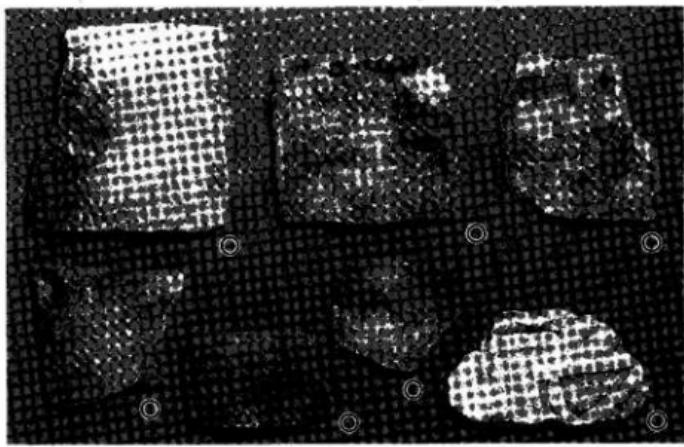
①



②

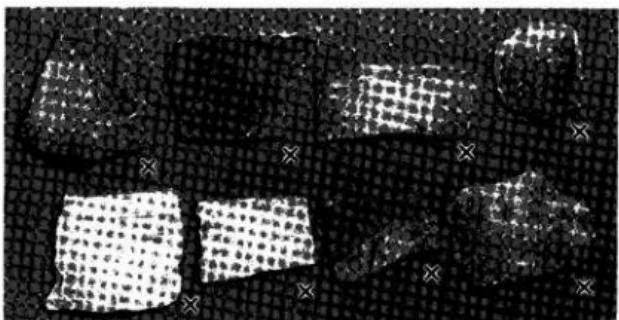


③

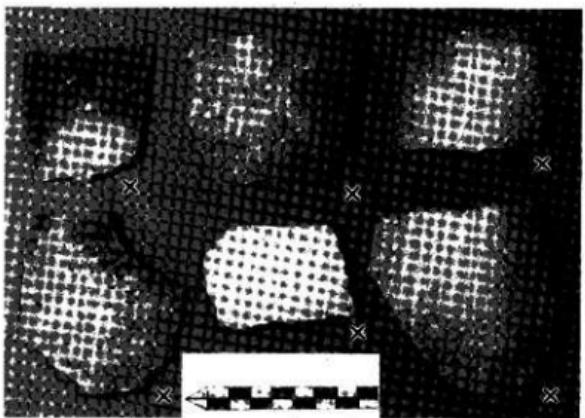


①②③=Tr 2 a II層の出土遺物 (☆=円盤状土製品)

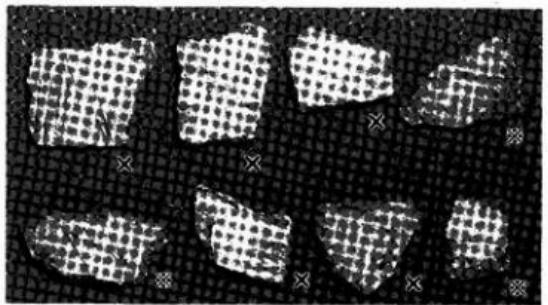
①



②



③

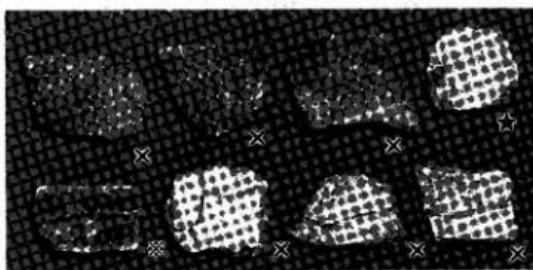


①②—Tr 2 a II層の出土遺物、③—Tr 2 b II層の出土遺物

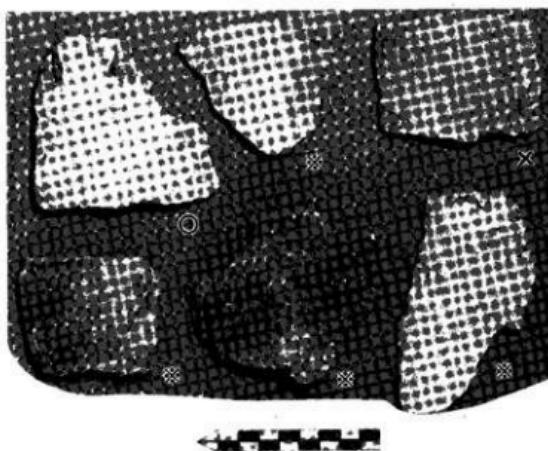
①



②



③

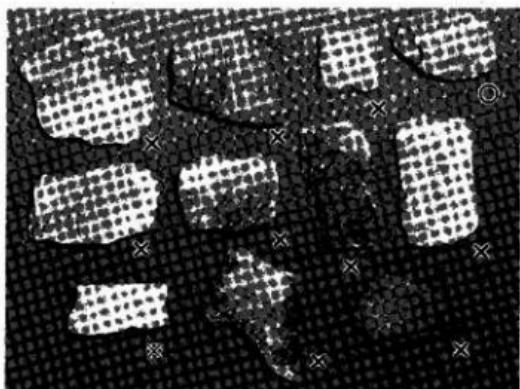


①②③—Tr 2 b II 層の出土遺物（★—円盤状土製品）

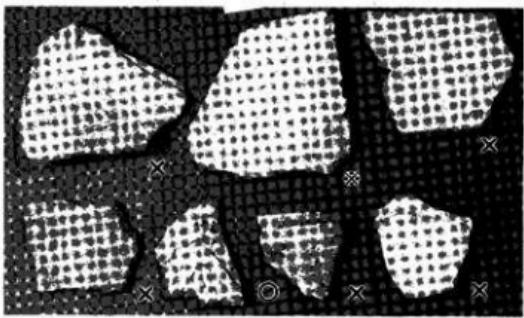
①



②

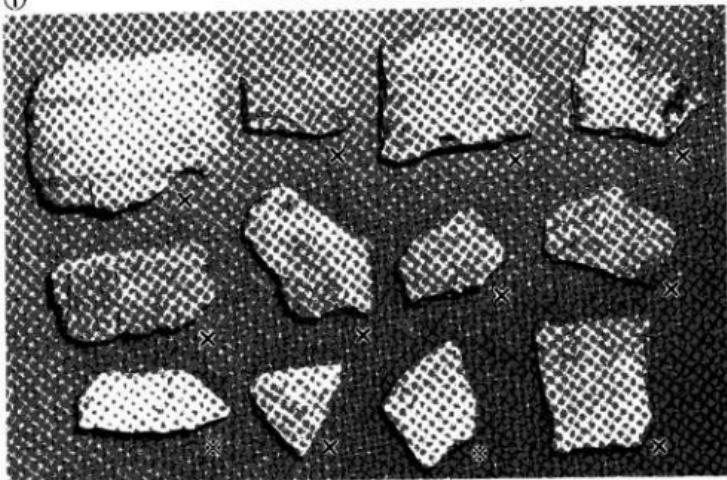


③

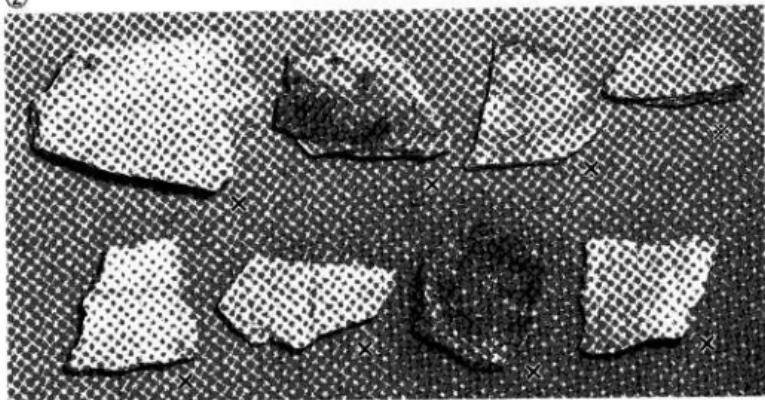


①②=Tr 3a II層の出土遺物、③=Tr 3a III層の出土遺物

①

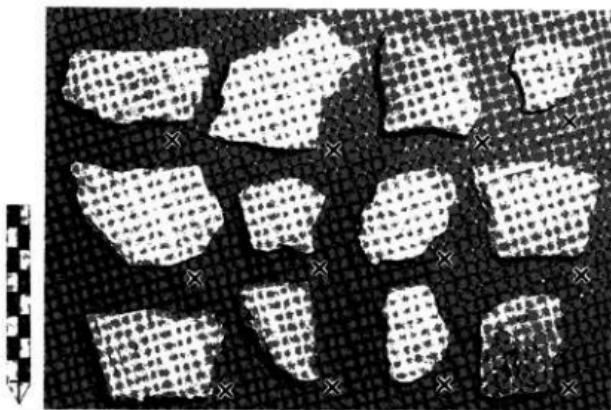


②

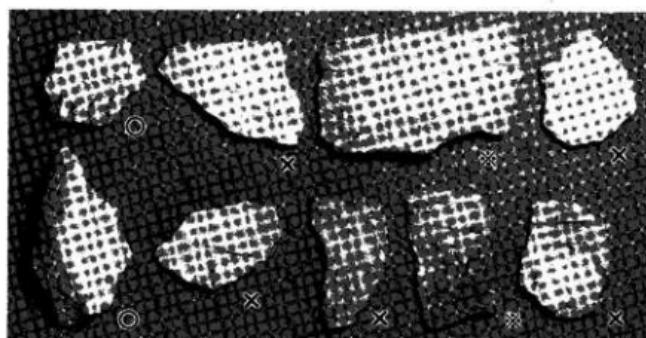


①②=Tr 3 b II層の出土遺物

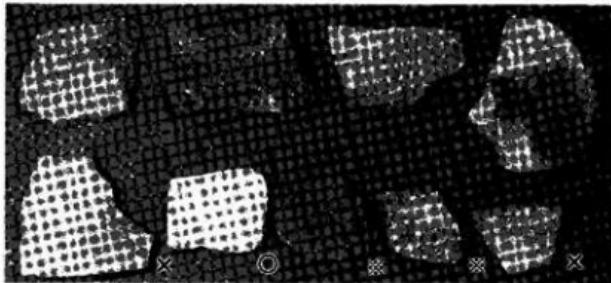
①



②



③

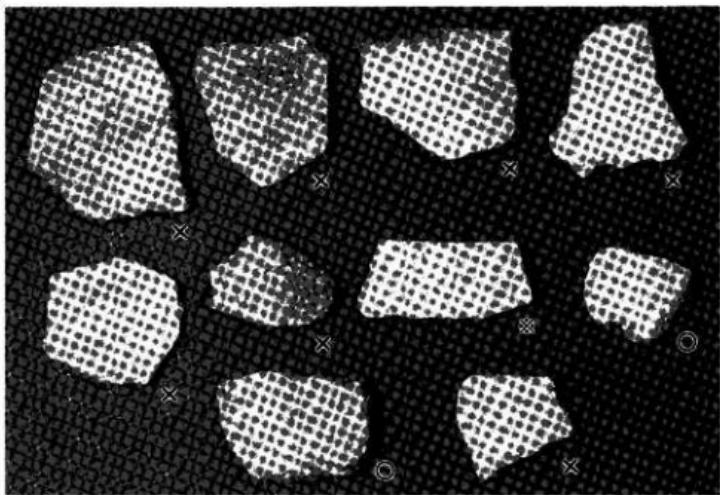


① Tr X 1 II層の出土遺物、②=Tr X 2 II層の出土遺物
③ Tr X 3 II層の出土遺物

①

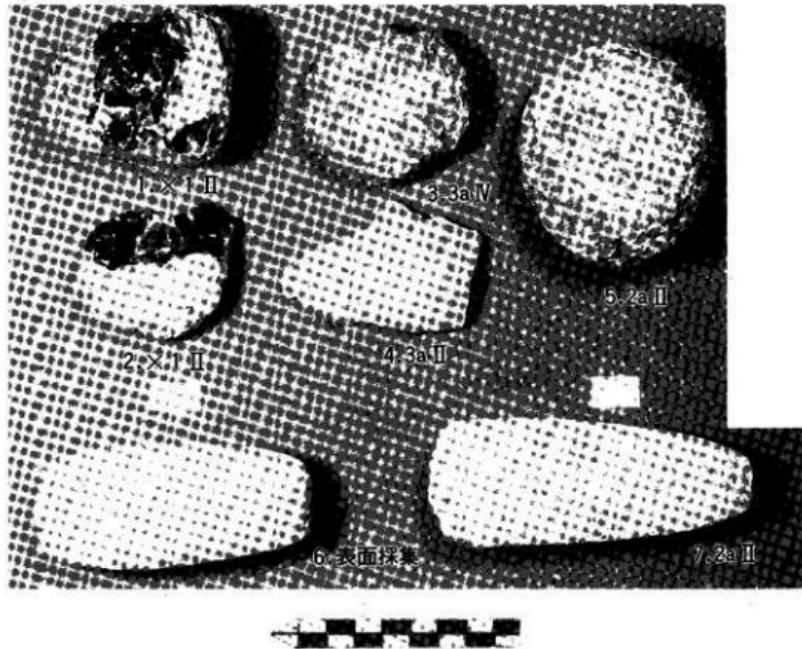


②



①—Tr 8 II層の出土遺物(骨類) ②—Tr 9 II層の出土遺物

[石器・自然石]



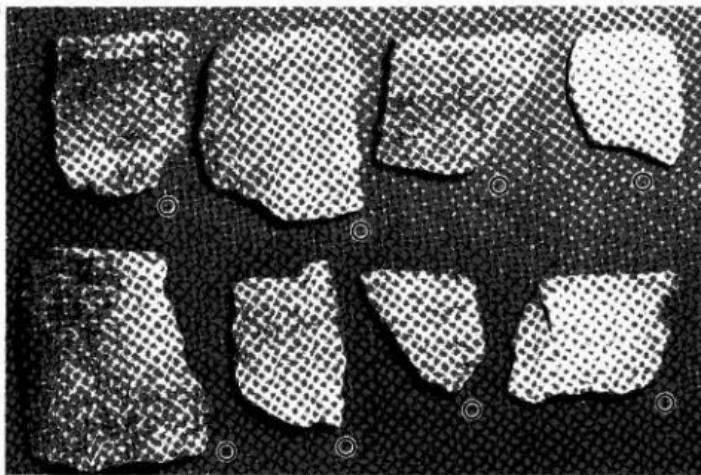
①②=黒曜石、③⑤=タタキ石、④=削器、⑥⑦=石斧

①



(参考資料)

②



☆参考資料

(地主さん提供)

①—須恵器（約10世紀）

②—縄文土器（縄文時代前期・中期（6000～5000～4000年前）

森田村埋蔵文化財シリーズ 第3集

玉井(1)遺跡(試掘調査概報)

発行所 青森県西津軽郡森田村教育委員会

所在地 青森県西津軽郡森田村大字山田字山崎61

TEL 0173-26-2111-内線81

FAX 0173-26-2114

印刷所 (有)西北印刷

TEL 0173-35-1303

FAX 0173-35-1308